

# 大関のこども

12月前半号

R2 校長室だより 第14号  
令和2年 12月 3日

HPアドレス  
<http://www.ozeki.ed.jp>

## クリスマスやお誕生日に、「本」をプレゼントしてはどうですか？

校長 濱辺 弘一

11月は大関小学校の読書月間。「読書の秋」ということで、『家読(うちどく)』の取り組みを行いました。

### 読書の方法

読書の方法	全校の延べ人数
・お子さんと、同じ本読んで話をする	64名
・読み聞かせ (お家の人からお子さんへ)	29名
・本の紹介 (お子さんからお家の人へ)	28名
・本の紹介 (お家の人からお子さんへ)	18名
・本の紹介 (お子さんからお家の人へ)	44名

読み聞かせや読書は、子どもの今後の人生を大きく変えることになるかもしれないほどの効果があることが報告されています。

- ・子どもの想像力を刺激して良い影響を与えています。
- ・言葉と物や出来事の対応を確認する作業となり、子どもの言語での表現力を養います。
- ・読書後のコミュニケーションにより、豊かな人間性を培うことができます。
- ・繰り返し見聞きした言葉というのは脳に定着していきます。話す時のボキャブラリーが平均よりずっと多いといえます。


上記の効果は、「家読カード」の感想を読んでいただければ分かっていただけたと思います。

**コロナに負けない！**  
**8つの約束**

**ま** スクで守ろう、自分と相手 

**け** んおんで、毎朝体温チェック 

**る** ーを守って、コロナ予防 

**な** やみがあれば、すぐ相談 

**お** おきな声は、ひかえよう 

**お** たがいの距離は、ソーシャルディスタンス 

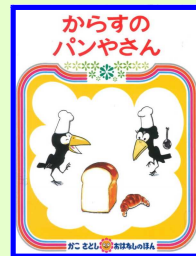
**ぜ** んいんで、しっかり手あらい30秒 

**き** れいな空気、換気しよう 

## 『家読(うちどく)』に取り組みました! 思っていた以上の感想を持ちました!!

### 1・2年

- ・絵本を通して、赤いものを探したり、想像したりと、ゆっくりと話をする機会、話を聞く機会になったと思う。素晴らしい取り組みだと思うので続けていこうと思う。今度二人で、いちご大福を食べようかと笑い合うことができた。:父
- ・小学生になって読み聞かせをする機会がほとんどなくなってしまっていたので、久しぶりに同じ本を読んで内容を話したり、一緒に本を読んだりできて、いい機会となった。すらすらひらがなを読めるようになっており、また、本の感想を話せるようになっており、成長も感じた。:母
- ・いっしょに読みました。現代と昔の生活の違いで、貧しさ、いろり、はたおりの様子など想像が難しいみたいです。「のぞき見、どうして許してあげられなかったの?」と言っていました。私が子どもの頃に感じた印象とは少し違っていました。これからもっと名作を読んでほしいです。:祖母
- ・孫の一生懸命に本を読む姿に感動しました。:祖母
- ・楽しい時間を過ごすことができた。:母
- ・母が小さい頃大好きだった本を娘が読んでいてうれしいです。:母



### 3・4年

- ・最近ゲームやマンガ、アニメの話になっていたのですが、本を通して子どもの考えや気持ちを知ることができてよかったです。:母
- ・子どもと同じ本を読む機会は、日常生活ではほとんどなく、よい機会になった。この本の内容、お互いが感じたことを話し、共有することで、子どもの考え方、主張したいことを理解できた。それぞれの立場になって考えることを行いました。楽しいひとときになりました。:父
- ・子どもに本を読んでもらうのは初めてで、すごく新鮮でした。親子だけの時間ができ、よかったです。:母
- ・こんな本を読むなんて、ちょっとびっくり! 人の気持ちを考えられる人になってほしい。:母
- ・普段、本を介してのコミュニケーションの取り方はあまりないので、息子から本の紹介をしてもらうことが新鮮で楽しかったです。:母

### 5・6年

- ・とても面白いお話でした。また図書館へ行って、いろいろな本を借りて一緒に読みたいと思います。:母
- ・この本は、DVDやテレビアニメで何回も見ることがありました。でも、改めて本を読み進めていくと、その場面を想像したり考えたりできて、久しぶりに本を読む楽しさを思い出しました。子どもも全部読み終わるまでにはす



## 子どもも、先生も、ボランティアの方も楽しんだ「大関フェスティバル！」とっても素晴らしい思い出ができました！！

11月27日(金) 待ちに待った大関フェスティバルが開催されました。班ごとに出された6つのお店を、縦割り班のみんなで楽しみながら回って歩きました。どのお店も楽しかったし、どのお店の景品もとても素晴らしいものでした。あるボランティアの方は、「いただいた手作りの景品は、車の前面に並べて飾っておきます！」と話していらっしやいました。



素晴らしい景品！

どれにしようかな～

こんなにあるよ～

## 「大関なかよし集会」人権について学びました！

12月4日～10日は、人権週間です。坂井市人権擁護委員の方が来校し、「人権を守るためには相手のことを考えて、思いやりの心・優しい心で接していくことが大切です。」と優しく教えてくださいました。各学年の代表による『ありがとうカード』の発表もありました。



## お知らせ

### 校舎改修！トイレ・体育館の照明の工事が始まります！

12月8日から校舎内改修工事として、北校舎と体育館のトイレ工事、体育館の照明工事が始まります。トイレは洋便器が多くなり、床もタイル張りを改修します。体育館の照明は、水銀灯からLEDになります。体育館照明工事は12月22日まで、トイレ工事は3月いっぱいまでかかります。工事期間中の体育は多目的ルームを使って行います。トイレは、南校舎トイレを全学年で仲良く使うことになります。できあがりを楽しみます。

## 大関きらら独り言

教育評論家 親野 智可等(おやの ちから)のHPに『親が寛大なら子どもは正直になる』というコラムがありました。

### ◇子どもにウソはつきもの◇

日本にも諸外国にも、花咲か爺さん、オオカミ少年、金の斧と銀の斧など、子どもに「ウソについてはいけない」と教える話がたくさんある。子どもはウソをつくものだという認識が世界中にあるから、こういう話がたくさん作られてきた。

### ◇子どもには解決力がないので、ついウソをついてしまう◇

大人は生活経験が豊かなので、何か問題があったときも、自分で解決方法を思い出すことができる。子どもは生活経験が少ないので、応用力がない。何か問題があったときも、解決方法を思い出すことができない。だから、正直に言って叱られるかウソをついてごまかすか、そのどちらかしかないということになりがち。それで、子どもはよくウソをつく。しかも、子どものウソは稚拙なので、大人のウソよりばれやすい。

### ◇親が寛大なら子どもは正直になる◇

子どもを正直にさせたいということで、ほんのちよっとのウソも許さないという姿勢で臨む親が時々いる。その結果どうなったかという、ウソが上手な子どもになってしまう。子どもを正直にさせたいと思ったら、子どもがウソをつく必要がないようにしてあげることが大切。子どもの失敗やミスを口うるさくとがめるのではなく、笑って許してあげる。おおらかで寛容な態度で接してあげる。そうすれば、子どもはウソをつく必要がなくなって、正直になんでも言えるようになる。